

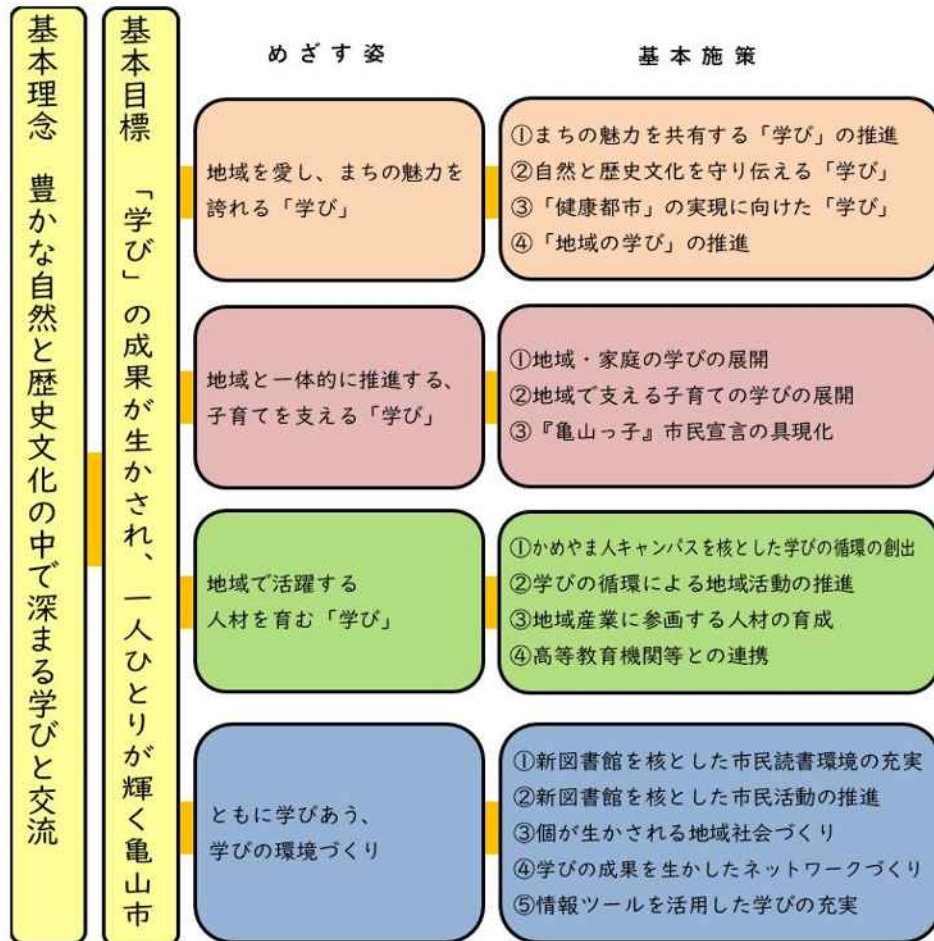
亀山市生涯学習計画に関する実績等報告書(令和7年度)

(教育委員会事務局 生涯学習課)

■計画の基本情報

計画期間	R 4 ～ R 8 年度
位置付け	本計画は、教育基本法第17条第2項の規定に基づく、地方公共団体の定める教育・振興のための施策に関する基本計画として位置付けている。また、第2次亀山市総合計画前後期基本計画との関連は、基本施策「学びによる生きがいの創出」と深く関わり、地域へ生かせる学びの展開などを補完するものである。
目的・概要	学びの成果を地域に還元する「学びの循環」が、新たな産業や仕事の創出、子育て、地域の安全安心、高齢者の見守り等の地域の課題解決に結び付いて、その結果としての地域創生に向けて、一人ひとりが地域で活躍できることをめざすものである。

計画の骨格



■成果指標

成果指標名			現状値	実績値 (R7)	目標値
		単位			
1	デジタル技術を活用した講座の開催数	回	8	13	20
2	「かめやまお茶の間10選(実践)」アンケートにおける取り組んだと回答した保護者割合	%	52	70.2	70
3	「亀山っ子」市民宣言についてのアンケートにおける目指す子ども像について実感があると回答した割合	%	24.4	34.1	30
4					
5					

■計画の実績等

取組実績	第2期かめやま人キャンパスの3年目応用編とし「まちのインフルエンサー養成講座」と「まちのせんせい養成講座」について、オンライン環境が整っている図書館多目的室を拠点として、講座を展開した。 市内幼稚園・保育所において、家庭教育出前講座を開催したほか、子育て応援メッセージである「かめやまお茶の間10選(実践)」の強化月間等に取り組んだ。 「亀山っ子」市民宣言の具現化行動の総括的な行事としての位置付けである、青少年体験活動サマーキャンプを実施した。
成果	かめやま人キャンパス講座において、3年を1期として1年目は入門編、2年目は基礎編、3年目は応用編として講座を展開し、令和7年度は3年間の講座を経て、成果の発表など所定のカリキュラムを修了した受講生5人に対して、「かめやま人」の称号を授与した。 また、かめやま人認定者に対して、フォローアップ講座を実施し、中央公民館講座等の講師や行政指導員と登用するための支援を行った。 また、家庭教育出前講座を展開し、「かめやまお茶の間10選(実践)」に取り組むことにより、家庭教育の重要性について意識啓発が図れた。
総合計画推進への寄与度	かめやま人キャンパスと公民館事業を基軸に様々な講座を実施して、学習機会を市民に提供し、地域の課題解決に取り組む人材育成を推進することにより、基本施策「学びによる生きがいの創出」につなげることができた。

反省点・課題	中央公民館講座については、高等教育機関と連携等を図るとともに、市民ニーズに沿った多種多様な講座を継続して提供していく必要がある。また、かめやま人の今後の活動を支援するため、行政関連部署や各関係団体等と連携を図るとともに、かめやま人に対しては、フォローアップ講座についても継続して行っていく必要がある。
--------	---

今後の方向性	認定したかめやま人を対象にかめやま人ミーティングを継続して開催するとともに、かめやま人の活動を支援するため関連部署等との連携に向けた調整を図る。また、かめやま人キャンパスと公民館事業を基軸に様々な学びを提供し、各講座の実施に努める。
--------	---

亀山市生涯学習計画 令和8年度計画 調査シート

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
①まちの魅力を共有する「学び」の推進		◆歴史文化資産を活用した郷土の学びの推進	地域で古くから守り受け継がれてきた後世に伝えるべき歴史・文化・自然などの遺産を歴史文化資産ととらえ、その魅力をテーマとした学びの機会を提供し、市民がまちの魅力に気づくことによって、自発的な郷土の学びや保全活動につながります。	まちなみ文化財G	東海道関宿まちなみ保存会や地域まちづくり協議会などの要望を受けて、例年では1～2回程度であった地元の歴史文化資産についての講座（行政出前講座）を8回実施し、延べ262名が参加した。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、地元の歴史文化資産についての講座を継続的に実施し、歴史文化遺産の学びに対する機運を更に高めることが今後の課題である。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、職員を積極的に派遣し、地元の歴史文化資産についての講座を行う。	A
				歴史博物館	企画展示では「初お目見え＆推しのIPPIN!」や「WokuWokuひろば 博物館で遊ぼう」を開催し、3,137人の来館があった。	企画展示では、多様な亀山市の歴史を実物資料で伝えるために、保管している博物館資料を活用し、今までは違う新たなテーマで展示することが必要である。	新たなテーマでの展示やインターネットでの情報発信に向け、デジタル技術を活用した収蔵資料の整理を行う。	A
				社会教育・スポーツG	出前教室（本町地区）で地区の歴史の講座を実施、また教養講座では、「かめやまはじまり物語」講座を実施した。	要望に応じた地域の歴史を伝えられるよう、地域ごとのテーマを深める準備を進める。	依頼を受ける際には、テーマについて、歴史博物館からのテーマや内容の提案を交えて具体的に打合せを行い、より地域に関係深い歴史内容を発信できるテーマ設定をする。	A
		◆地域の歴史を生かした学びの充実	地域ごとの魅力を再発見し、市民一人ひとりの郷土愛を育むため、学校教育や公民館講座、各地域まちづくり協議会における地域の学びなどの機会を活用して、市域の歴史を題材とした学びの機会を充実します。	まちなみ文化財G	東海道関宿まちなみ保存会や地域まちづくり協議会などの要望を受けて、例年では1～2回程度であった地元の歴史や文化財をテーマにした行政出前講座を8回実施した。	各地域まちづくり協議会や学校・自治会・地元団体等からの要望に対して、地元の歴史や文化財をテーマにした講座を継続的に実施し、歴史文化遺産の学びに対する機運を更に高めることが今後の課題である。	各地域まちづくり協議会、学校、自治会等からの要望に対して、職員を積極的に派遣し、地元の歴史や文化財をテーマにした講座を行う。	A
				歴史博物館	かめやま出前トーク（3回）や移動展示（2回）などにより、各地域ゆかりの歴史を題材とした学習の機会を提供した。	要望に応じた地域の歴史の話が提供できるよう、地域の歴史や文化等の知見を深める必要がある。	より地域に関係深い歴史内容を発信できるようにするため、依頼を受ける際に、聞き取りや打ち合わせをしっかりと行い、学びの機会を提供する。	B
				支援推進G	社会科や総合的な学習の時間において、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域にある歴史教材を活用した学びの機会を持つことができた。	地域の歴史教材の活用の仕方、ゲストティーチャーの人材発掘	各学校で総合的な学習の時間に活用した歴史教材についての学びができるよう年間計画に位置付けていく。	B
				社会教育・スポーツG	身近な地域の自然・景勝地などを探訪する講座や「かめやまはじまり物語」講座などを実施し、地域の自然環境や歴史を学ぶことで、あらゆる世代が地域に対する愛着心を育み自然・歴史文化などのまちの魅力の共有を図った。	自然・歴史文化などのまちの魅力を共有し、まちの魅力を次世代へ継承し地域への誇りを高める取り組みを行うとともに、地域のニーズに沿った講座として引き続き充実を図っていく必要がある。	次世代に向けた地域への愛着心を育むため、自然・歴史文化などのまちの魅力を共有するとともに、まちの魅力を次世代へ継承し地域への誇りを高める取り組みを創出する。	A
		◆亀山の自然を生かした学びの推進	市民が自然豊かな地域での暮らしに愛着を感じ、地域の自然環境への誇りを醸成するために、鈴鹿川等源流域の豊かな自然資源や市内の自然公園等を活用し、生物多様性や森林環境に関する学びに取り組み、自然との共生を軸とした持続的発展のための学びを推進します。	生物多様性・獣害対策G	ザリガニつり大会に約228名の方にご参加いただき、外来種に関する啓発を行った。一方、クリスマススズくり体験については、従来通りの開催方法で引き続き実施し、約50名の方が自然素材を使った工作体験をした。また、市民団体と行政で構成する亀山里山公園みちくさ管理運営協議会において、フォトコンテストおよび里山塾（年9回）を実施した。	イベント運用上のキャパシティもあり、イベントのみで自然に触れる機会の提供を促進することは難しい。日常的な来園者や団体利用増加を目指すつつ、揭示物や解説をとおして、「持続可能な社会を作るための観点としての自然との共生」についての学びを提供していく必要がある。自然共生サイトとして園内の生物多様性の価値を活かし、質の高い体験を提供する等に取り組んでいきたい。また、里山公園以外で行われる市民団体等による取組の支援も有効である。	来園者増加に取り組みつつ、「持続可能な社会を作るための観点としての自然との共生」について学ぶことができるよう、例年通りイベントを実施していく中で、揭示物や配布物、イベント時の情報提供方法を工夫等していく。また、里山公園に限らず、自然との共生をテーマにした学びを得る機会を創出するとともに、かめやま生物多様性共生区域に認定した区域を活用したイベントを検討する。また、市民団体の取組を支援する。	B
				農林政策G	みえ森と緑の県民税市町交付金事業にて市自然公園等を利用し、丸太切り体験や木工工作等のイベントを開催し計29名の市民に森林環境教育などの学習機会を提供しました。	今後も引き続きみえ森と緑の県民税市町交付金事業にて市自然公園等を利用し、イベントを開催し、森林環境教育などの学習機会を提供していきます。	今後も引き続きみえ森と緑の県民税市町交付金事業にて市自然公園を利用し、イベントを開催し、森林環境教育などの学習機会を提供していきます。	B
				観光・地域ブランドG	亀山7座トレイルイベントを年10回開催（参加人数99名）し、生物多様性や森林環境に関する学びに取り組み、自然との共生を軸とした持続的発展のための学びを推進した。	亀山7座トレイルイベントの規模を拡大していくために、亀山市地域社会振興会を事務局とした鈴鹿高等学校、石水溪観光協会で構成されている「亀山7座トレイル」登山道活用ネットワークの連携強化を図るとともに、他の自然資源を活用した体験型アクティビティを検討すること。	「亀山7座トレイル」登山道活用ネットワークの連携強化を図るとともに、トレイルイベントだけでなく、参加対象をファミリー層に広げたイベントの実施を検討し、自然観光の活性化につなげる。	B

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
めざす姿1 地域を愛し、まちの魅力を誇れる「学び」	◆他地域との交流の推進	亀山市の魅力の再発見を行うために「伊賀・甲賀・亀山広域連携会議」など他地域との交流や亀山市の自然、歴史文化を生かした交流活動によって、まちの魅力の相互理解を深める取り組みを推進します。		政策調整G	「いこか連携ビジョン」が掲げる基本理念「広域連携による活力ある地域社会の実現」の具現化に向け、9つの分野別検討部会において、共通の地域課題の解消や相互理解を深める事業・取組を行った。また、2つの分野別検討部会（観光・交通）において、連携事業として令和8年度に予算化する事業の審査、採択を行った。	令和6年3月に改訂した「いこか連携ビジョン」に沿って、三市に共通する地域課題の解消や相互理解の深化に向け、継続して各分野別検討部会にて共通の地域課題の解消に向けた事業・取組を実施しているも、一部の分野別検討部会が活用しきれいていない状況があるため、その在り方について検討する必要がある。	三市共通の地域課題への対応及び広域交流・連携の推進に向け、それぞれの自治体を持つ地域資源を活用しながら、「いこか連携ビジョン」に位置付ける施策・事業を各分野別検討部会において進めるとともに、分野別検討部会の在り方について三市で協議、検討を進める。	B
				社会教育・スポーツG	伊賀・甲賀・亀山広域連携会議の取組として、伊賀市で青少年育成市民会議研修会・いこか連携交流会の開催を実施したことにより交流を深めた。	限られた時間の中で意見交流を行うことから、事前にテーマを設定して進めているが、各青少年育成市民会議の活動実態や構成が違うため、更に実践推進を図っていく必要がある。	テーマに基づく意見交換会を実施することとして、令和8年度は甲賀市で開催することにより、広域連携会議での連携を進める。	A
	②自然と歴史文化を守り伝える「学び」	◆自然と地域をつなげる人材の支援	地域の自然に関する学びをきっかけに市民の自発的な保全活動への参画を促すなど、鈴鹿川等源流域の自然環境等を保全する人材を、学びを通して支援します。	生物多様性・獣害対策G	里山塾を年9回実施し、亀山の自然や生き物についてより親しむ機会を提供した。また、これらの講座において講師を努めた団体の活動も紹介し、希望した塾生が市民活動へ参加できるように努めた。	里山塾には、子どもを中心に意欲的な塾生の参加がある。こうした人材を、里山塾を修了した後、市民活動等に繋いでいく必要がある。水辺の活動については、積極的に受け皿となる団体があるものの、虫や植物など、多様な興味関心を持つ塾生を受入れられる団体が無い。	引き続き、里山塾で学んだ塾生を受け入れるよう、団体等との協議を続ける。また、これまで協議してきた団体以外にも、里山公園にて私的に観察を継続しているような個人との連携も模索していく。	B
				農林政策G	みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用して鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動に負担金を支出し支援することで、協議会主催のイベント・講座に165名が参加しました。	みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用して鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援を行います。	みえ森と緑の県民税市町交付金事業を活用して鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援を行います。	A
				社会教育・スポーツG	中央公民館講座では、「七感に響く亀山」をテーマとした連続講座を開催し、自然に関する講座を開催した。また文化講座で、「花散歩」として地域の自然に関する連続講座を実施した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	次世代に向けた地域への愛着心を育むため、自然・歴史文化などのまちの魅力を共有するとともに、まちの魅力を次世代へ継承し地域への誇りを高める取り組みを創出する。	A
		◆地域の先人の学びの継承	地域に対する興味関心を深め、地域への愛着心を育むために、地域に対する功績や市域の出身者で広く活躍した人物について、情報発信や講座などを通じて学ぶ機会を展開します。	歴史博物館	常設展やかめやま出前トーク（3回）等を通して市域の活躍した出身者を紹介し、学ぶ機会を提供した。	あまり知られていない人物についても関心を持ってもらえるように、機会をとらえて情報発信をしていく。	各講座や展示等において市域の出身者で広く活躍した人物の功績等を発信し、知ってもらう機会を提供するため、デジタル化など収蔵資料の整理を行う。	B
				社会教育・スポーツG	かめやま人の認定を受けた方を対象に、フォローアップ講座を開催し、地域に対する興味関心を深めるとともに、地域への愛着信を育んだ。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	地域への愛着心を育むために、かめやま人の認定を受けた人を対象に、フォローアップ講座を実施する。	B
		◆地域文化を体感する機会の提供	身近な地域の自然、史跡や社寺、景勝地・伝承地などを探訪する講座などを開催し、地域の歴史文化や自然環境を体感することで、あらゆる世代が地域に対する愛着心を共有できる機会を提供します。	生物多様性・獣害対策G	ザリガニつり大会に約228名の方にご参加いただき、外来種に関する啓発を行った。一方、クリスマスつくり体験については、従来通りの開催方法で引き続き実施し、約50名の方が自然素材を使った工作体験をした。また、市民団体と行政で構成する亀山里山公園みちくさ管理運営協議会において、フォトコンテストおよび里山塾（年9回）を実施した。	イベント運用上のキャパシティもあり、イベントのみで自然に触れる機会の提供を促進することは難しい。日常的な来園者や団体利用増加を目指しつつ、掲示物や解説をとおして、「持続可能な社会を作るための観点としての自然との共生」についての学びを提供していく必要がある。自然共生サイトとして園内の生物多様性の価値を活かし、質の高い体験を提供する等に取り組んでいきたい。また、里山公園以外で行われる市民団体等による取組の支援も有効である。	来園者増加に取り組みつつ、「持続可能な社会を作るための観点としての自然との共生」について学ぶことができるよう、例年通りイベントを実施していく中で、掲示物や配布物、イベント時の情報提供方法を工夫等していく。また、里山公園に限らず、自然との共生をテーマにした学びを得る機会を創出するとともに、かめやま生物多様性共生区域に認定した区域を活用したイベントを検討する。また、市民団体の取組を支援する。	B
				歴史博物館	国の重要文化財である開地蔵院において、6月と12月に移動展示を2回実施し、地域の歴史文化に触れることで、地位に対する愛着心を共有できる機会を提供した。	各種講座等で、地域の歴史文化や自然環境を体感できる講座についても検討する必要がある。	地域や団体等と連携し、社寺や伝承地などを身近に感じ、地域に愛着がもてるようなイベントや講座を開催できるよう、新たな資料の収集と収蔵資料の整理を行う。	B
				まちなみ文化財G	東海道関宿まちなみ保存会や地域まちづくり協議会などの要望を受けて、例年では1～2回程度であった史跡（鈴鹿関）や東海道の宿場などを紹介する行政出前講座を8回実施した。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、地元の歴史や文化財をテーマにした講座を継続的に実施する必要がある。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、職員を積極的に派遣し、地元の歴史文化を体感できる講座を行う。	A
	◆地域の世代間交流の推進		人同士のつながりをまちの健康ととらえ、子どもから高齢者までのあらゆる世代が、生きがいを感じながら自発的に地域に参画することができる世代間交流を推進します。	社会教育・スポーツG	公民館講座では、夏休み企画として親子や家族で参加できる講座を開催した。また、親子で参加するロボット講座や子育て中の方を対象とした講座（子育ての宝箱）などを開催し、子供から大人までが参加できる講座を行った。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	公民館講座では、親子や家族で参加できる講座を開催するとともに子育て中の方を対象とした講座（子育ての宝箱）を開催し、子供から大人までが参加できる講座を行う。	A

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
③「健康都市」の実現に向けた「学び」	◆生涯スポーツの推進	体力づくりや健康づくりのきっかけとして、市民が誰でも気軽にスポーツや運動に取り組めるよう、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ、各種スポーツ団体等の関係機関が実施する各種教室や大会を支援し、生涯スポーツを推進します。		社会教育・スポーツG	総合型地域スポーツクラブが実施する教室や亀山市スポーツ協会の活動について、広報誌やホームページに掲載し支援した。また、スポーツ推進委員と誰もが気軽に参加できるニューススポーツ大会を開催した。	ニューススポーツ大会への参加者数が伸び悩んでいるため、周知方法等の検討を含め、市民が気軽にスポーツや運動に取り組める環境づくりに努める必要がある。	総合型地域スポーツクラブが実施する教室や各種スポーツ団体の活動について、広報誌やホームページを活用して支援を行う。また、より参加しやすくなるよう「ニューススポーツ体験会」を実施する。引き続き、スポーツ推進委員と連携して行政出前講座のメニューとして取り入れ、ニューススポーツの普及啓発に取り組む。	A
	◆くらしの質を高める読書活動と文化芸術活動	広く読書活動を推進し、文化芸術を鑑賞・体験・発表する機会を充実することで、こころの健康を維持し、市民のくらしの質を高めます。		文化・人権G	・市美術展を行い、902人の来場があった。 ・広報亀山句会（川柳、俳句）を開催し、654人の応募があった。 ・市文化会館の指定管理者である公益財団法人亀山市地域社会振興会による自主文化事業の実施（和太鼓洋楽器コラボコンサート等の鑑賞型事業、文化会館フェスタ、亀山ミュージカル等の参加型事業）を開催し、22,458人の参加・入場者があった。	引き続き、市主催事業（美術展、広報亀山句会等）や指定管理者である公益財団法人亀山市地域社会振興会が実施する自主文化事業により、文化芸術を鑑賞・体験・発表する機会の充実を継続する必要がある。	・市美術展の開催 ・広報亀山句会（川柳、俳句）の実施 ・市文化会館の指定管理者である公益財団法人亀山市地域社会振興会による自主文化事業（ピアノ・オペラ・落語等の鑑賞型事業、文化会館フェスタ、かめ・ぶん・フェス等の参加型事業）の実施	A
				図書館	文化芸術の鑑賞・体験に繋がる多様なイベントや展示を行い、関連図書資料の展示やブックリストの配布を行った。	関係団体等と連携し文化芸術に触れるイベントや展示を行う際には、その機会を利用して、読書活動に繋がる取組を効果的に行う必要がある。	関係団体等と連携し、文化芸術関連のイベント等を実施するとともに、その機会を利用して、読書活動に繋がる取組を効果的に行う。	A
	◆健康と食に関する学びと推進	健康な生活を維持するための栄養の取り方や、食の大切さ、婦人会などによる地域の伝統的な食文化の継承など、幅広い健康と食に関する学びを推進します。		健康増進G	<食生活改善推進協議会の活動> ・市民伝達講習会(5回：延べ89人参加) ・地区伝達講習会(30回：延べ303人参加) <管理栄養士と健都サポーターの活動> ・地域の栄養教室(2回：延べ40人参加)	健康と食に関する学びを推進するため、食に関する団体等と連携し、市民を対象とした食の健康教育の推進に努める必要がある。	令和6年度に作成した「かめやま健康レシピ」を普及させるため、管理栄養士が中心となり、健都サポーターや食生活改善推進協議会と協力・連携して、地域などで健康と食に関する学びを推進する健康教育を実施します。	A
				社会教育・スポーツG	中央公民館講座では、食に関する講座である、「匠の手から学ぶすし」、「匠の手から学ぶ中華料理」、未就学児の保護者を対象に「苦手なものを食べる工夫」の講座を開催した。また、健康に関する講座では、ピラティスやエアロビクス、ヨガなどの講座を開催した。	公民館講座について、市民のニーズに合った食と健康づくりのための講座を展開していく必要がある。	公民館講座では、ピラティス、エアロビクス、シニア向けのヨガ、バランスボール、健康のど体操や、匠の手から学ぶすし、匠の手から学ぶ中国料理など食と健康に関する講座を開催し、健康な生活を維持できるような講座を開催する。	A
	◆多様な学びの一体的な推進	健康都市の実現に向けた「健康都市大学」の取り組みと連携し、多様な学びの一体的な推進を図ります。		健康増進G	かめやま健康都市大学第三期として、健康、食、運動コースごとに講座を実施し、受講者数のべ207名のうち116名が修了した。	地域での健康活動の拡大に向け、かめやま健康都市大学の新規受講者を獲得するなど、若い世代に受講していただけるような一層の工夫が必要である。	受講生だけでなく、どなたでも参加が可能（年齢制限なし）なオープンキャンパスを実施することで、次年度の受講につながるよう大学を紹介します。	A
④「地域の学び」の推進	◆地域のニーズに沿った公民館講座の実施	各地域まちづくり協議会と連携して、地域の歴史や健康体操、創作教室など、受講者の自発的な学びのきっかけとなるような、地域のニーズに沿った公民館講座を実施します。		社会教育・スポーツG	公民館講座では、各地域まちづくり協議会と連携して、地域の歴史や健康体操、音楽鑑賞、創作教室など、受講者の自発的な学びのきっかけとなるような、地域のニーズに沿った公民館講座を実施した。	公民館講座について、地区によって参加者が少ない講座があり、アンケートや聞き取り調査などを行い、地域のニーズに沿った講座を行う必要がある。	各地域まちづくり協議会と連携して、地域の歴史や健康体操、音楽鑑賞、創作教室など、受講者の自発的な学びのきっかけとなるような、地域のニーズに沿った公民館講座を実施します。	A
					健康体操については、福祉部署との講座と同様の内容にならないよう調整を行う必要がある。			
	◆地域資源を生かした学びの機会の提供	地域の資源を生かしたまちづくりにつなげるために、市民や地域団体と連携して、鈴鹿山系や茶文化、星空、文化財などの地域資源を生かした学びの機会を提供します。		社会教育・スポーツG	鈴鹿峠自然の家及び天文台「童夢」では、地域の資源を活かした、宿泊体験学習や星のイベントを実施した。	施設の有効的な活用と保存に努めていく必要がある。	星のイベントの実施、また社会教育団体のイベントを実施する。（野外体験学習、サマーキャンプ等）	A
				観光・地域ブランドG	亀山地域社会振興会等と連携して亀山7座トレイルイベントを開催した。また、観光プロモーション推進事業において、三重県観光連盟と連携して、石水溪キャンプ場やかぶとの森テラスなど観光コンテンツの情報発信に努めた。	地域資源を生かした学びの機会を提供するための、体験型観光コンテンツを充実させること。	引き続き亀山市地域社会振興会などとの連携して亀山7座トレイルを開催する。また、亀山版グリーンツーリズムを展開するため、三重県観光連盟との連携やSNSなどの活用により情報発信に努めるとともに、モニターツアーの検証を踏まえ、体験型観光コンテンツを発掘、造成する。	B
				農林政策G	市の出前トークや茶業組合によるお茶の淹れ方教室や茶摘み体験を実施し（13回計399人）、本市特産の茶に親しみ学ぶ機会を提供しました。	今後も引き続き市の出前トークや茶業組合によるお茶の入れ方教室などを通じて、本市特産の茶に親しみ学ぶ機会を提供していきます。	出前トークやお茶の入れ方教室などを通じて、本市特産の茶に親しみ学ぶ機会を提供します。	A
				まちなみ文化財G	東海道関宿まちなみ保存会や地域まちづくり協議会などの要望を受けて、例年では1～2回程度であった史跡（鈴鹿関）や東海道の宿場などの地域資源について紹介する行政出前講座を8回実施した。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、地元の文化財等の地域資源について紹介する講座を継続的に実施する必要がある。	各地域まちづくり協議会や自治会等からの要望に対して、職員を積極的に派遣し、地元の文化財等の地域資源について紹介する講座を行う。	A
	◆総合学習・地域学習の支援	学校における総合学習や地域学習の支援を進めるため、地域の指導者や各種講座の修了生などのゲストティーチャーを活用し、学校における総合学習・地域学習を地域全体で支援します。		支援推進G	地域の方をゲストティーチャーとして活用し、充実した体験学習活動を行うことができた。	ゲストティーチャーの固定化や高齢化等、ゲストティーチャーを招聘する学校の偏りがある。	学校で招聘したゲストティーチャーを研修会等で紹介するなどの交流を行い、偏りを解消しながら、学校における総合学習・地域学習を地域全体での取り組みを支援する。	A

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
めざす姿2 地域と一体的に推進する「子育て」	◆博学連携による地域の学びの推進		子どもたちの地域への関心を高めるため、歴史博物館と学校の連携による亀山子ども歴史館ホームページや貸出しユニットなどを充実させ、地域の歴史文化の教材化を支援して学校における地域学習を推進します。	支援推進G	歴史博物館と学校との連携を回り、亀山子ども歴史館HPの閲覧や貸出ユニット等の活用し、学校における地域学習を進めることができた。	利用する貸出ユニットが固定化されてきているため、新たな貸出ユニットがあれば学校に周知する必要がある。	研修会や校長会等で貸出ユニットの紹介をする機会を設けるなど、学校へ周知を回り、学校における地域学習への取り組みを支援する。	A
				歴史博物館	出前授業14回・来館学習5回、歴博貸出ユニット10回の利活用等により、学校や地域の歴史学習を支援した。 また、小中校長会での情報提供とともに、教員研修を1回実施し、授業に利用してもらえよう博物館資料を活用した地域の歴史を知る機会を提供した。	子どもたちの豊かな創造力や感性を育む取組として、実物を見て学習する機会の提供を継続することが必要である。	博物館と学校とのパイプ役である地域学習支援推進員を通じて、出前授業を充実させるとともに、歴博貸出ユニットを活用して子どもたちの地域の歴史を知る学習を支援する。	A
		◆歴史資料を活用した郷土の学びの推進	歴史資料を活用し、市史、展示図録等としてホームページでの公開活用を図るとともに、実物資料と併せて学校や地域の歴史学習に生かし、郷土の学びを推進します。	歴史博物館	亀山市史のシステムの改善を行い、全体の配信が途切れて見れなかった亀山市史民俗編の動画が見れるようになった。また、各種展示の開催や講座等の開講、学校教育との連携事業等をホームページに掲載し、地域の歴史に関する実物資料や歴史と出会える機会を発信した。	ホームページの内容の充実を回り、より多くの人が活用しやすい情報発信に取り組む必要がある。	共同研究先である同志社大学文化遺産情報科学調査研究センターと亀山市史の改修を含め、博物館資料のデジタル・アーカイブ化に向けて取り組む。また、より多くの人に開かれた博物館となるよう、引き続き博物館の活動や博物館資料の情報発信について、SNS等様々な方法を活用して行っていく。	B
	①地域・家庭の学びの展開	◆かめやまお茶の間10選（実践）の推進	家庭生活を通じて幼少期から基本的な生活習慣を身に付けられるよう、「かめやまお茶の間10選（実践）」の取り組みを推進し、家庭教育の重要性についての意識啓発を図ります。	社会教育・スポーツG	令和7年度も1学期と2学期に「かめやまお茶の間10選（実践）」強化週間を設定し、幼稚園・保育園・認定こども園、小中学校の全保護者に協力を依頼した。	小中学校の保護者には、「つながる連絡」を活用して、依頼文やアンケート等を配信したが、回答率は大幅に下がった。	「つながる連絡」を活用したlineの配信は、見過ごされることが多いので、たより等の配布も視野に入れながら、強化週間をより周知してもらえよう工夫する。	A
		◆親の学びの推進	子どもの基本的な生活習慣の確立や自己肯定感向上を基軸とした、家庭教育の重要性や考え方の共有を図るため、保育所・幼稚園・認定こども園・小学校それぞれで、食育や読み聞かせ等をテーマとした家庭教育出前講座を開催し、親の学びを推進します。	社会教育・スポーツG	家庭教育出前講座は7園（159人参加）で、家庭・地域の教育力向上事業は3校で実施した。	家庭教育出前講座では7つのメニューを用意しているが、令和7年度は申し込みが3つのメニューに偏ってしまったので、満遍なく申し込んでもらえるよう工夫する必要がある。	保護者のニーズの把握に努め、魅力ある講座の開設を模索するとともに、より多くの園から申し込んでもらえるよう、園長会等で依頼していく。	A
		◆発達段階に即した共通カリキュラムの実践	児童生徒の基本的な生活習慣の確立と自己肯定感の向上を図るために、「亀山市保幼認共通カリキュラム」や「亀山市保幼認小接続カリキュラム」を活用した一貫した就学前の教育・保育の持続的実践に取り組めます。	社会教育・スポーツG	就学時健康診断の際に、「朝ごはんバランスシート」や「ババママ読んで」、「かめやまお茶の間10選（実践）」リーフレットを全保護者に配付し説明した。	全ての保護者に配付資料が行き渡るよう、今後も継続していく必要がある。	必要に応じて配付する資料の見直しを行うと共に、保護者により分かりやすく説明できるよう努める。	B
		◆子育てに関する情報の一元化と充実		支援推進G	「亀山市保幼認共通カリキュラム」や「亀山市保幼認小接続カリキュラム」を活用し、一貫した就学前の教育・保育を計画的・持続的に取組を進めることができた。	「共通カリキュラム」や「接続カリキュラム」を活用し、就学前教育・保育と小学校教育におけるスムーズな接続を継続していく必要がある。	引き続き、「亀山市保幼認共通カリキュラム」や「亀山市保幼認小接続カリキュラム」を活用し、一貫した就学前の教育・保育を計画的・持続的に取組を進める。	A
				社会教育・スポーツG	「かめやまお茶の間10選（実践）」強化週間2025集計結果をまとめ、市ホームページにUPすると共に、その旨を記載した概要版を作成し、全保護者に配付・配信した。	より多くの保護者にHPを見て頂けるよう、機会を捉えて発信・周知に努めていく必要がある。	「かめやまお茶の間10選（実践）」強化週間2026集計結果を作成し市HPにUPすると共に、その旨とQRコードを記載した概要版を作成し、全保護者に配付・配信する。	A
				社会教育・スポーツG	中央公民館「子育ての宝箱」講座において、子育て世代を対象とした講座を開催し、子育て世代の方の交流の場づくりにも	子育て世代の方のニーズにあった講座を開催する必要がある。	子育て世代に引き続き開催し、子育て世代に対する支援を行う。	A
	②地域で支える子育ての学びの展開	◆子育て学習や子育てサークル活動の支援	地域子育て支援センターなど子育て世帯が交流する場所を活用し、共通する話題や悩みを持つ子育て世代同士がつながり、交流を深められるよう、子育てサークル活動への支援を行うとともに、活動団体同士の交流の場づくりを行います。	保育サポートG	子育て支援センターの公立2施設での行事の開催やその周知を行い、民間3施設への支援を行うことで、子育て世帯の交流の場の提供、相談体制の確保を行った。	子育てサークル活動団体との連携を検討していく。	「亀山市公式LINE」等を活用し、市内の子育てサークル活動の情報発信や、イベントの共催等を検討していく。	A
				社会教育・スポーツG	インフルエンザ等の感染症による学級閉鎖等により、一部中止となった放課後子ども教室もあったが、全小学校区で実施することができた。	放課後子ども教室のコーディネーターを年2回程度招集して、放課後子ども教室での諸課題や今後に向けた方向性などの共有を行っているが、一部の小学校区では、運営に関わる人の高齢化や人材不足があり、今後はどのように人材の確保していくかの課題などがある。	全小学校区において引き続き、放課後子ども教室の持続的な運営を行うとともに、放課後児童クラブと十分な連携を図り、体験学習や地域の人との交流活動を通じて、児童が安心して過ごすことができる場を創出していく。	A
		◆地域が主体となった放課後子ども教室の持続的推進	放課後の小学生の居場所となる放課後子ども教室と放課後児童クラブとの連携を強化するとともに、地域の方々の参画を得て、子どもたちが様々な体験や地域交流ができる居場所づくりを推進します。	社会教育・スポーツG	・中央公民館講座では、親子で参加できる講座や子育て中の方を対象とした講座（子育ての宝箱）などを開催し、子育て世帯が参加できるような講座を開催した。 ・かめやま人キャンパスまちのせんせい養成講座では、地域で活躍できるような人材育成のための講座を開催した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を回す必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	中央公民館講座では、親子で参加できる講座や子育て中の方を対象とした講座（子育ての宝箱）などを開催し、子育て世帯が参加できるような講座を開催する。 かめやま人キャンパスにおいて、心理学の連続講座を開催し、地域で子育て世代の悩みの相談ができる人材育成に努める。	A
		◆子育て支援のすそ野の拡大	地域の人々が子育て世帯を支えることができるよう、ファミリー・サポート・センターの実施する子育て支援員研修や公民館講座での人材育成に努めます。	子ども総務G	「子育て支援員研修」を子育て支援「かめのこ」に委託して実施した。ファミリー・サポート・センターなどで子育てを支援する人材を増員するため、研修の案内を庁内外各所に配置するとともにLINE等による周知を行った。	ファミリー・サポート・センターの援助会員より活動してくれる受講者を増やしていく必要がある。	引き続き「子育て支援員研修」を実施し、実施について積極的に周知し、受講者を増やすことで子育て世帯を支えることのできる人材の確保に取り組む。また、育成した方が実際にファミリー・サポート・センターの援助会員になってくれるよう働きかける。	A

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
③『亀山っ子』市民宣言の具現化		◆SNSを活用した子育て世帯の交流促進	子育てに関するイベントや子育てサークルの活動など様々な子育てに関する情報について、SNSなどICT技術を活用した多様な情報発信を行うことで、子育て世帯の交流促進を図ります。	保育サポートG	「亀山市公式LINE」や広報等を活用し、地域子育て支援センターの行事の紹介や子育てに関する情報を定期的に発信した。	「亀山市公式LINE」や広報等を活用し、引き続き様々な情報を発信する必要がある。	「亀山市公式LINE」など、様々なツールを活用し、子育てに関する情報発信を行い、子育て世帯が交流の機会を得られるよう支援する。	A
		◆『亀山っ子』市民宣言の意識共有	『亀山っ子』市民宣言の意味と市民の役割の理解共有を図るとともに、その実践活動への支援を行います。	社会教育・スポーツG	実践活動への支援を行い、地域で子どもの健全な育成に参画する人のネットワークを活用し、子ども育成者の資質向上のための学びの機会の提供を推進した。	「亀山っ子」市民宣言の具現化行動であるサマーキャンプ、親子ふれあいデー、明るい家庭づくり作文コンクール、親子ふれあい教室、親子読書感想画コンクール等を再検討し、よりニーズに合ったものにする必要がある。	引き続き、実践活動への支援を行い、地域で子どもの健全な育成に参画する人のネットワークを活用し、子ども育成者の資質向上のための学びの機会を提供する。	A
		◆地域の子ども育成者づくりの推進	地域で子どもの健全な育成に参画する人のネットワークを活用し、子ども育成者の資質向上のための学びの機会の提供を推進します。	社会教育・スポーツG	亀山市子ども会育成者連絡協議会に加入する各単位子ども会から1名ずつと亀山市青少年育成指導委員を対象に、指導者・育成者研修会を開催した。	今後、参加者全員が救命救急講習においてAEDの扱い方を習得できるよう、AEDの数と時間を確保する必要がある。	参加者全員が救命救急講習においてAEDの扱い方を習得できるよう、AEDの数と時間を確保して指導者・育成者研修会を開催する。	A
		◆青少年リーダーの育成と子どもの役割づくりの推進	サマーキャンプや宿泊体験学習などの実践活動を通じた青少年リーダーの育成を行うとともに、活動の中での成功体験を通じて子どもの自己肯定感を高める取り組みを推進します。	社会教育・スポーツG	市子連事業の運営補助をしてもらう中学生のジュニアリーダーや青少年育成市民会議のサマーキャンプにおける高校生のリーダー、中学生のサブリーダーを募集し、様々な体験活動を通じて異年齢交流を促進した。	亀山市子ども会育成者連絡協議会のジュニアリーダーの募集は各事業毎に行うのではなく、年間を通して登録するシステムに変更したが、ジュニアの参加状況が減少傾向にあるため、募集方法を改善する必要がある。	引き続き、市子連事業の運営補助をしてもらう中学生のジュニアリーダーや青少年育成市民会議のサマーキャンプにおける高校生のリーダー、中学生のサブリーダーを募集し、様々な体験活動を通じて異年齢交流を促進する。	A
		◆親子の交流の場の創出	家族の絆や世代を超えた交流を推進するため、亀山市青少年育成市民会議や亀山市子ども会育成者連絡協議会の各種事業や、かめやまげんきこフェスティバル等における、親子で参加できる交流の場づくりに取り組みます。	社会教育・スポーツG	幼保認・小学校の保護者に市民宣言に関するアンケートを実施すると共に、市民会議育成部会や子ども会育成者連絡協議会において親子で参加できる事業を開催した。	よりニーズに応じた親子で参加できる事業計画が必要である。また、市民会議では役員の高齢化が進んでいるため、後継者の育成が急務である。	アンケートの実施を継続するとともに、市民会議育成部会や子ども会育成者連絡協議会において、より魅力のある親子で参加できる事業を計画する。	A
①かめやま人キャンパスを核とした学びの循環の創出		◆実践的な学びの機会の提供	かめやま人キャンパスにおいて、地域の課題解決と活性化のために、市内外で活躍している団体等と連携して、グループ学習やフィールドワークを中心とした実践的な学びの機会を提供します。	社会教育・スポーツG	中央公民館では、「七感に響く亀山」講座や「花散歩」講座を開催し、市内の公園や溪谷において、薬草やキノコや野鳥観察などフィールドワークを中心とした学びの機会を提供した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	中央公民館では、「亀山ネイチャーアカデミー」講座や「花散歩」講座を開催し、フィールドワークを中心とした学びの機会を提供する。	A
		◆地域課題に取り組む人材の育成	学びの成果を地域の課題解決に生かすことができるよう、かめやま人キャンパスを核とした学習体系の充実を進めることにより、地域で活躍できる人材を育成します。	社会教育・スポーツG	・かめやま人キャンパスまちのせんせい養成講座とまちのインフルエンサー養成講座を開催し、地域で活躍できる人材の育成に努める。 ・かめやま人の認定を受けた方を対象に、フォローアップ講座を開催した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。	かめやま人キャンパスを開催し、地域で活躍できる人材の育成に努める。	A
		◆学びの成果を生かせる場の創出	かめやま人キャンパスのカリキュラムを修了した「かめやま人」の活動を支援し、フォローアップ講座等を通じた「かめやま人」同士の連携促進に努めるとともに、関係部署や地域団体等と連携することで、学びの成果を生かせる場を創出します。	社会教育・スポーツG	かめやま人キャンパスについては、第1期から第2期への展開を図ることができた。第1期「かめやま人」17人に対して、フォローアップ講座を実施し、中央公民館講座等の講師や行政委員として登用するなどの支援等を図った。	第1期「かめやま人」の今後の活動を支援するため、中央公民館や行政関連部署・各関係団体と連携するとともに、かめやま人キャンパスの諸活動の発信を継続して行っていく必要がある。	かめやま人キャンパス事業と中央公民館事業を基軸に、大学や研究機関・行政関連部署との連携を進めながら、主体的に地域課題を見つけ、その課題の解決に取り組む人づくりや仲間づくりを進めることで地域の活性化につげるとともに、学び手から学びの担い手となる学びの循環を創出する。	A
		◆地域の担い手の育成	各地域まちづくり協議会と連携して「地域担い手育成研修」を開催するなど、地域で活躍できる地域リーダーの発掘及び育成に努めます。	地域まちづくりG	会議ファシリテーション研修を3回実施した。研修の一環として亀山市地域まちづくり協議会連絡会議のサロンを組み込み、研修で学んだ対話によるまちづくりの実践の機会とした。 また、地域のmiraいづくりアカデミーを3回実施した。昨年度までの講師から変更し、より担い手不足にアプローチする内容とした。 両研修を通じた受講者は延べ103人であり、これまでの受講者の中から令和7年度に1人が地域まちづくり協議会の役員に就任した。 なお、研修の周知にあたっては、令和7年度に新たに設置された亀山市市民活動・ボランティアセンター「ぶらっと」での「ぶらっとカフェ15」にてPRし、新たな参加者層の確保に努めた。	より地域の課題に即した研修となるよう、地域のニーズに合わせた研修内容や実施方法を検討する必要がある。	「担い手不足の解消」などの地域が直面する課題をテーマに、地域人材の育成・確保を目的とした地域のmiraいづくりアカデミーを実施する。 また、地域まちづくり協議会の意義や役割などについて学び、地域におけるまちづくりの重要性を啓発する勉強会を開催する。	B

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
めざす姿3 地域で活躍する人材を育む「学び」	②学びの循環による地域活動の推進	◆歴史や伝統を継承する担い手の育成	祭礼や伝統行事など、歴史的風致を形成している地域固有の歴史や伝統を継承する担い手や、開宿伝統的建造物群保存地区の保存に関わる技術者・技能者の育成に努めます。	まちなみ文化財G	開宿「関の山車」保存会が開小学校やアスレで行う関の山車に関する学習会やお囃子等体験会の企画・運営について支援した。（関小学校2回、アスレ2回） 令和6年度の開宿重要伝統的建造物群保存地区選定40周年記念事業で初めて開催した、開小学校の児童を対象とした「子どもワークショップ」を令和7年度も引き続き2回開催し、開宿の将来を担う子供の育成に繋げた。 開宿の歴史を後世に伝えるため、東海道開宿まちなみ保存会と共に開宿かるた大会（大人の部・子どもの部）を昨年にも引き続き開催し、開宿のまちなみ保存の意識向上を図ることができた。 文化財施設において、市内の小中学校等が行う開宿の見学行事（社会見学等）に対し、説明等の対応を行った。（市内の小中学校等4回） 開宿における伝統的建造物群保存修理修景事業を通して、現場見学会を開催し、建築士や技能者の養成を行った。 大阪・関西万博では、「三重のおまつり大集合！M I E フェスティバル I N E X P O」へも出演し、無形民俗文化財である「関の山車」を世界へ向けてPRを行った。	地域文化財等の伝承を図るため、地元の子供たちのお囃子の練習や成果披露の会場として関の山車会館を活用しているが、少子高齢化等による文化財保存伝承活動の担い手不足を解消することが今後の課題である。 建築士や技能者の養成のため、活動の場である伝統的建造物群保存修理修景事業等を継続的に実施する必要がある。 大阪・関西万博への出演を契機にし、祭礼や伝統行事などをPRするためのイベント等への積極的な参加が今後必要である。	地元の子供を対象としたお囃子練習会等の定期的な実施を開の山車会館で継続して行い、文化財等の担い手を育成する。 当初は令和6年度の開宿重要伝統的建造物群保存地区選定40周年記念事業の一環として一時的に開催した「開宿かるた大会（子どもの部）」についても、引き続き関の山車会館において開催を予定している。 地元保存会が開催する公開講座等へ将来を担う子供たちの参加を促進させ、地域社会全体で文化財等を継承し人材育成を行う。 今年度も引き続き、技術者・技能者の育成に努めるため、伝統的建造物群保存修理修景事業等を継続して実施し、現場見学会を開催する。	A
		◆市民企画講座の推進	地域にとって必要な学びを自発的に実施できる環境を創出するため、市民や市民団体が自ら企画提案して講座や研修などが行えるよう、開催のための支援を行います。	社会教育・スポーツG	かめやま人認定者が企画して、公民館講座などを実施するための相談・支援を行った。	かめやま人認定者が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。	中央公民館講座等において、かめやま人認定者が企画して、講座などを実施するための相談・支援を行う。	B
		◆指導者の育成と活躍の機会の創出	スポーツや文化芸術活動の更なる活性化に向け、講習会や研修会などの機会を通じて指導者を育成するとともに、市内で指導者として活躍できる機会を創出します。	社会教育・スポーツG 文化・人権G	・かめやま人の認定を受けた方を対象に、フォローアップ講座を開催した。 ・今年度も市文化会館の指定管理者である公益財団法人亀山市地域社会振興会による自主文化事業（さいまつコンサート及び亀山ミュージカルワークショップ成果発表公演等）に市文化大使が参加し、指導者の育成や、後継者の育成、定着に取組んだ。 ・令和6年度から配置している文化芸術活動団体の支援職員が、申請手続き支援などの事務支援や運営補助などの運営支援を行い、文化芸術活動の活性化に寄与した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。 指導者や後継者の育成や定着に、継続的かつ計画的に取組む必要がある。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を円滑に調整する。 ・さいまつコンサート、亀山ミュージカル人材育成のためのワークショップ、文化会館フェスタ等指導者の育成や定着につながる市文化会館の指定管理者である公益財団法人亀山市地域社会振興会による自主文化事業の実施 ・文化芸術活動団体の事務支援職員による文化芸術活動の活性化につながる支援の実施	B A
	③地域産業に参画する人材の育成	◆地域ブランド創出事業の推進	地域の魅力を戦略的に発信するために、地域ブランディングを推進するとともに、地域ブランドの創出に向けた人材育成を進めます。	観光・地域ブランドG	大阪・関西万博や鬼佐野市等でのPRイベントにおいて、亀山ブランドを含む地元産品のPR販売を行うことで、地域ブランディングを推進したとともに、伴走型支援として個別相談会を行い、事業者のブラッシュアップに努めた。	亀山ブランドを通じて、市の魅力を戦略的に情報発信すること及び事業者に必要な支援を行いブラッシュアップにつなげること。	コミュニケーション戦略に基づき、引き続き市内外の人々に情報発信を行い、また、地域ブランドの創出に向けた人材育成や事業者同士をつなげる支援メニューを検討する。	B
		◆コミュニティビジネスの創出と支援	学びの成果をビジネスに活用し、地域の活性化につなげるため、かめやま人キャンパスや商工会議所の創業塾等と連携して、コミュニティビジネスの創出と支援に取り組みます。	社会教育・スポーツG 商工業振興G	・かめやま人の認定を受けた方を対象に、フォローアップ講座を開催した。 4回シリーズで経営のノウハウを学べる創業塾には15人が参加し、にぎわいの創出に向けて関係機関と連携して支援をした。また、過去に創業塾を受講された方も含め、4人の方が市内で創業し、地域における新たな創業や雇用の創出に寄与した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップや、相談等の業務も必要となる。公民館講座については、ニーズに合った講座を展開していく必要がある。 多くの人に創業塾を受講していただき、市内での新たなビジネス創出につなげていくことが課題である。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるため、関係部署や各種団体と連携を円滑に調整する。	B B

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況			
④高等教育機関等との連携	◆地域産業の担い手を育てる環境づくり	職場体験やインターンシップによる、若年層のキャリア教育に取り組むとともに、産学官民連携によって地域と様々な主体をつなげる人材を育成することで、地域産業の担い手が育ちやすい環境づくりを推進します。	商工業振興G	社会教育・スポーツG	雇用対策協議会の活動において、亀山高校の進路ガイダンスに参加し、地元企業が生徒に企業の魅力をPRし、地元雇用の確保に努めた。	市内企業は人員確保に苦慮していることから、学生時代から市内企業に興味を持ってもらえるような情報発信をしていく必要がある。	市内企業のPRに努めるとともに、地元雇用の確保に努める。	B			
					中学生の職場体験を実施することにより、地域と密着した人材育成に繋げることができた。	若年層のキャリア教育に取り組んではいるものの、地域産業の担い手を育てるところまでは至っていない。具体的な方策を考える必要がある。	地域と繋がる人材育成に積極的に取り組み、地場産業に参画する人材を育成する。	B			
	◆リカレント教育の推進	大学等の高等教育機関と連携し、一人ひとりのライフスタイルに応じて求められる知識・技術を身に付けられるようリカレント教育の推進を図ります。	社会教育・スポーツG	社会教育・スポーツG	地域の方との触れ合いと人に教えることを学ぶ機会とする。公民館講座パソコン教室における講師を依頼し、ワード、エクセル講座を開催した。（亀山高等学校、徳風高等学校）また、徳風高校教師・生徒によるドックケア講座を実施した。三重大学ロボコン部による親子のロボット教室を開催した。	高校の高等教育機関の教師等の事情により、開催日程等の調整で難航することがあるため、学校との連携・調整に努める必要がある。	中央公民館講座では、亀山高校、徳風高校との連携した講座を開催する。	A			
					社会教育・スポーツG	サマーキャンプ実施し、学生の参画を依頼することができ、大学生・高校生・中学生の連携した学びの機会確保に繋げることができた。	多世代交流のためサマーキャンプがあるが、その他にも学生の参画を得て、学びの機会の充実を図る必要がある。	青少年育成市民会議で実施するサマーキャンプにおいて高校生、大学生との連携を行うとともに、亀山高校等において、公民館講座を実施する。	A		
						文化・人権G	第21回ヒューマンフェスタin亀山において、実行委員会には市内教職員代表、校長会代表、亀山高等学校及び徳風高等学校が参画した。企画内容は、様々な年齢層が参加しやすい各種団体と連携して計画した。当日は、亀山高等学校フレンドリークラブが「子どもの人権」をテーマに全体会で提案を行うとともに、その後のディスカッションに参加した。	ヒューマンフェスタへの引き続き市内高校生等の参画を促進するとともに、参画機会の充実を図る必要がある。	・市内小中学校及び高等学校等の教育機関と連携したヒューマンフェスタの開催	A	
					社会教育・スポーツG		DXやニューノーマルにおける学びの在り方について、高等教育機関と連携して研究を進めるとともに、新しい時代に即した学びの提供に努めます。	サマーキャンプを実施することにより、大学生・高校生・中学生の連携した学びの機会確保に繋げることができた。	ニューノーマルにおける学びの形として、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようデジタル技術を活用した誰もが参加できる学びの環境の整備を更に拡大していく必要がある。	かめやま人キャンパス事業と中央公民館事業を基軸に、学びの情報の一元的な発信を継続し、学びの場を保障できるようデジタル技術を活用した誰もが参加できる学びの環境の整備を更に拡大していく。	B
							社会教育・スポーツG	地域をフィールドとした調査研究によって、地域に関する知が蓄積され、その学びの成果が、地域の課題解決や地域の活性化につながるよう、高等教育機関等の関係者との連携を図ります。	サマーキャンプ実施することにより、大学生・高校生・中学生の連携した学びの機会確保に繋げることができた。	多世代交流のためサマーキャンプがあるが、その他にも学生の参画を得て、学びの機会の充実を図る必要がある。	青少年育成市民会議で実施するサマーキャンプにおいて高校生、大学生との連携を行う。また、様々な機会を通じて教育機関との連携を図る。
	①新図書館を核とした市民読書環境の充実	◆読書活動ネットワークの構築	新図書館を核として地域や学校などを含めた読書活動ネットワークを構築し、身近な読書環境づくりを推進します。	図書館	図書館	出張図書館として地域イベントに参加した他、地域の拠点においてリサイクル雑誌の設置を行った。学校連携による地域資料の図書館展示や社会見学・職場体験、おはなし会の機会を通じてネットワークを構築した。	地域読書活動拠点等への訪問が限定的であったため、今後新たに拠点を設置するなど、拠点の整備、充実を図る必要がある。	地域の読書活動拠点を拡充することにより、身近な読書環境を整える。また、担当部署・学校と連携することにより、子どもの読書環境づくりの推進を継続して行う。	B		
						図書館	テーマ展示やミニ展示を継続し、市の動きや時事に合わせ、展示内容の拡大を行った。セミナーや展示、ワークショップ等を実施し、読書活動を核とした交流の場を提供することができた。	図書館サービスに対するニーズ把握を行い、サービスの充実には必要がある。データベースや外国語資料など幅広い資料の周知案内などを行う必要がある。	行政、図書館ボランティア、市民活動団体等と連携し、イベントや展示を実施するとともに、サービス実施計画の検証、改定を行い、図書館資料の周知、認知度の向上に繋げる。	A	
						図書館	大活字本の蔵書拡大や図書館ボランティア団体「朗読奉仕会」とサービス拡大について意見交換を行った。点字付き寄贈圖書を展示した他、小学生のユニバーサルデザイン学習を受け入れ、改善点など見直しを行った。	読書バリアフリーの視点に立ったサービスの提供について、認知度を上げるために周知方法を工夫する必要がある。	読書バリアフリーの視点に立ったサービスの周知、大活字本やオーディオブック、ＬＬブックなどの障がい者利用資料の利用促進に繋がる取り組みを行う。	B	
						図書館	次世代を担う子どもたちの豊かな心と生きる力を育むために、「子ども読書活動推進計画」に基づいて、ブックスタート事業や図書ユニットによる巡回貸出システムを活用し、子どもの自発的な読書活動を支える環境づくりに努めます。	社会見学等の機会やニュースレターを活用し、子どもの読書意欲の向上に繋がる取り組みを行う必要がある。「はんくる。」の利用実績を拡大するため、担当部署・学校との連携を強化し利用促進に繋げる必要がある。	社会見学等を有効に活用し、読書手帳「はんくるぐ」の紹介をするなど、子どもの読書意欲をより高められるような案内を行う。また、「はんくる。」の利用促進のため、担当部署・学校と連携して積極的に周知を行う。	B	
						図書館	インターネット環境の整備や多様な分野の活動成果を発表できる場の提供など、様々な市民活動のために必要な機能を備えた新図書館を整備し、市民の生涯学習の拠点としての機能の向上を図ります。	作家等の講演会開催や行政連携、市民活動団体による講座や活動発表、コンサート、ワークショップ等の多様なイベントを開催し、学びや体験の場を提供することができた。	多様な分野の活動成果を発表する場を提供できるよう、施設の利用方法を分かりやすく公開し、調整できるようにする必要がある。	多様な分野の活動成果を発表する場を提供できるよう利用案内を行う。	B

めざす姿	基本施策	具体的な施策		担当G	令和7年度実績	今後の課題	令和8年度の具体的な取り組み	R4～R7の進捗状況
めざす姿4 ともに学びあう、学びの環境づくり	②新図書館を核とした市民活動の推進	◆利用者同士の交流機会の創出	文化情報プラザを活用し、読書会やビブリオバトルなど参加者同士がお互いの感想を述べあう読書活動イベントや近接地域との広域的な連携イベントの開催など、誰もが本に親しみ、交流できる機会を創出します。	図書館	ビブリオバトルや朗読会、TRPGを開催し、参加者間交流の機会を創出した。鈴鹿花き組合、亀山駅、駅前郵便局、みえ登録有形文化財建造物友の会との連携企画により読書活動の幅を広げることができた。	参加者が少ないイベントについては、開催日時の検討や、効果的な周知案内をする必要がある。	イベントを通じて、参加者同士が交流できる機会を提供するために、実施するイベントの認知度を上げ、参加促進に繋がる効果的な案内を行う。	A
		◆学習サークルの立ち上げと活動の支援	身近な地域での学習環境の充実を図るため、学習サークルの立ち上げと活動を支援するとともに、新図書館を交流の拠点として、機能の充実を図ります。	社会教育・スポーツG	中央公民館の文化講座を修了された方によって、自主運営されているサークル活動の立ち上げ等の活動支援を行った。	学びのガイドブックに掲載することで、学習サークルの情報を発信していくことが必要である。	中央公民館の文化講座を修了された方によって、自主運営されているサークル活動の立ち上げ等の活動支援を引き続き行う。	B
	③個が生かされる地域社会づくり	◆人権・平和に関する学習機会の提供	人権学習や平和学習など、市民一人ひとりの人権感覚を磨くため、様々な団体との連携・協働による学習の場を提供します。	文化・人権G	学校、地域、事業所において、人権出前講座を実施するとともに人権週間に合わせて、ヒューマンフェスティン亀山を開催した。また、市内活動団体によるパネル展示を亀山市立図書館、亀山エコーで行った。 (人権出前講座：9回、延べ参加者数438人)	より多くの市民の人権に対する理解が深まるよう、出前講座の内容を工夫するとともに、人権週間等の機会を活用し、様々な団体と連携した取組の充実を図っていく必要がある。	・学校、地域、事業所などへの出前講座の実施 ・人権週間等の機会を活用し、市内活動団体と連携したパネル展示等の啓発活動の実施	A
		◆誰もが参加できる学びの場の構築	ダイバーシティ社会の実現に向け、性別や年齢、国籍、障がいの有無に関わらず、多様性を認め合いながら学べる場を構築します。	文化・人権G	亀山市男女共同参画市民育成講座や三重県内男女共同参画連携映画祭、ヒューマンフェスタなどの様々な機会を捉え、学びの場の創出に努めた。また、日本語教室を開催することにより、外国人住民などを対象に日本語を学ぶ機会を提供するとともに、日本語ボランティア養成講座を開催し、日本語教室の充実につながるよう努め、ダイバーシティ社会の実現に向けた学びの機会を提供した。	日本語教室については、関係団体と協議しながら運営方法の見直し及び継続的な実施を回るとともに、女性リーダーをはじめとする担い手の育成を進める必要がある。また、これらの取組を通じて、ダイバーシティ社会の実現に向けて学びの機会を提供充実を図る必要がある。	・三重県内男女共同参画連携映画祭の開催 ・ヒューマンフェスタの開催 ・日本語教室の充実に向けた日本語ボランティア養成講座を開催し、関係団体とともに日本語教室を開催 ・亀山市男女共同参画市民育成講座等を通して女性リーダーの育成を図る	A
		◆未来に向けた学びの意識の共有	持続可能な地域社会の実現に向けて、個々の学びの成果が生かされ、誰一人取り残さない包摂的な学びの意識の共有を図ります。	社会教育・スポーツG	地域での学びを深めて、地域で活躍できる人材を確保していくため、中央公民館講座・かめやま人キャンパスをフィールドに、人材育成のための学びを一体的に推進した。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できるように、関係部署や各種団体と連携を図る必要がある。また、受講後の活動のフォローアップ業務が必要となる。	「かめやま人キャンパス」の受講生が、受講後に活動できる場を確保していくよう努める。	B
		◆「教育の日」の制定に関する調査・研究	市民の教育に対する意識を高めるとともに、学校教育及び生涯学習の推進の機運を醸成し、「教育のまち」として充実と発展を図るため、「教育の日」制定について調査・研究します。	社会教育・スポーツG	社会教育委員会にて、「教育の日」制定も含めた「家庭・地域の教育力向上」に向けての提言書作成のための議論を重ねた。	社会教育委員会としての提言書をまとめ上げ、教育長に手渡す必要がある。	社会教育委員会にて、提言内容の具現化に向けた議論を重ねると共に、機会を捉えて各園・学校を訪問し、提言書の周知に努める。	B
	④学びの成果を生かしたネットワークづくり	◆豊かな人材ネットワークの構築	地域人材が幅広く活躍するために、個々の学びの成果を行政や地域づくりに生かせるよう、現行の人材バンクを活用して、学び同士の人材ネットワークを構築し、豊かな社会関係資本の醸成に努めます。	社会教育・スポーツG	人材バンク活用支援事業を実施し、年度初めの園長会にて依頼した。令和7年度は9園から申し込みがあった。	人材バンクへの登録者を拡充すると共に、広く市民への周知を図る必要がある。	人材バンク活用支援事業を継続し、登録車の拡充に努めると共に、園長会において活用を依頼する。また、機会を捉えて、市HPの閲覧を働きかける。	B
		◆ICTを活用した「つながり」の拡大	SNSを活用した情報発信や、オンライン会議ツールを活用したオンライン講座など、デジタル・ディバイド（情報格差）を解消するための学びの機会を創出し、ICTを活用した学びの「つながり」の拡大に努めます。	社会教育・スポーツG	学びの場を保障できるよう、YouTube Live 等のデジタル技術を活用して、オンライン受講可能な講座を実施し、誰もが参加できる学びの環境の整備を図った。かめやま人キャンパスにおいては、SNSや動画編集について学べる講座を実施した。	誰もが学ぶことができる環境づくりのため、デジタル技術を活用した講座の実施するとともに、学びの情報の一元的な発信を継続し、学びの場を保障できるようデジタル技術を活用した誰もが参加できる学びの環境の更なる拡大を図る必要がある。	かめやま人キャンパスにおいて、YouTube Live 等のデジタル技術を活用して、オンライン受講可能な講座を実施し、誰もが参加できる学びの環境の整備を図る。	B
	⑤情報ツールを活用した学びの充実	◆学びの情報の一元化	市民が必要な学びの情報を得られるよう、「亀山学びのガイドブック」を発行し、市内で展開される多様な主体による学びの情報を一元化して発信します。	社会教育・スポーツG	市民が必要な学びの情報を得られるよう、かめやま人キャンパス、中央公民館講座のほか、健康都市大学、歴史博物館講座、里山塾関係、スポーツ・健康教室など他部署が実施している講座等の情報を集約し、「亀山学びのガイドブック」として一元化して情報発信した。	SNSを活用した多様な情報発信により、誰もが学ぶことができる環境づくりの必要があるため、デジタル・ディバイド（情報格差）解消につながる講座を継続実施していく必要がある。	市民が必要な学びの情報を得られるよう、かめやま人キャンパス、中央公民館講座のほか、健康都市大学、里山塾関係、スポーツ・健康教室など他部署が実施している講座等の情報を集約し、「亀山学びのガイドブック」として一元化して情報発信する。また、SNSを活用した情報発信に努め、誰もが学ぶことができる環境づくりを図っていく。	A
		◆ICTの利活用による学びの環境づくり	誰もが学ぶことができる環境づくりのため、ICTを活用した講座の実施を検討するとともに、学びの場へのICT環境の整備を検討します。	社会教育・スポーツG	かめやま人キャンパス講座において、学びの場を保障できるよう、YouTube Live 等のデジタル技術を活用して、オンライン受講可能な講座を実施した。	公民館講座については、多くの講座を青少年研修センター会議室で開催している。オンラインでの開催ができる環境でないことから、施設の整備が必要である。また、会場を環境が整った新図書館とするなどの工夫を継続して行うことが必要となる。	かめやま人キャンパスにおいて、YouTube Live 等のデジタル技術を活用して、オンライン受講可能な講座を実施し、誰もが参加できる学びの環境の整備を図る。	B